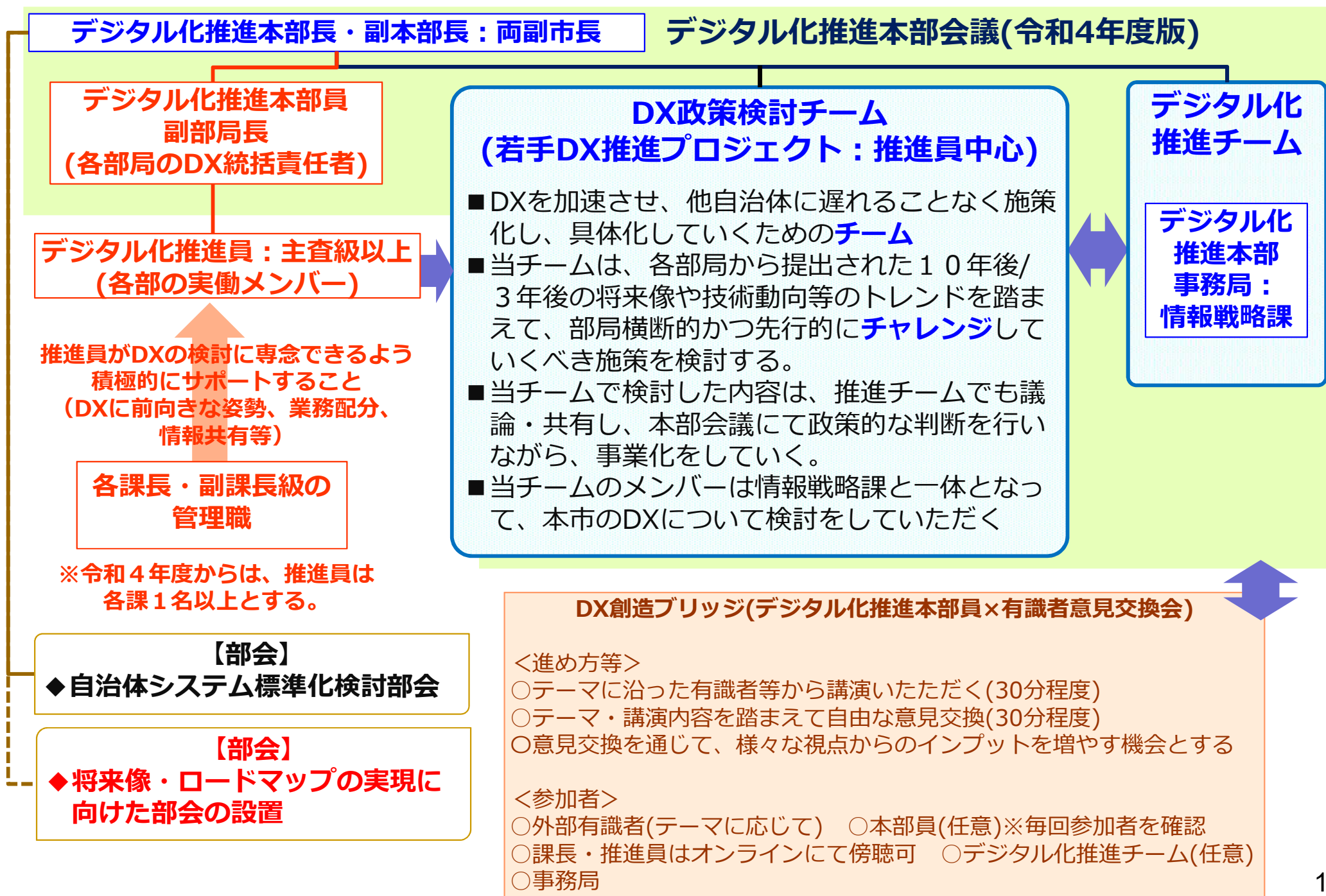


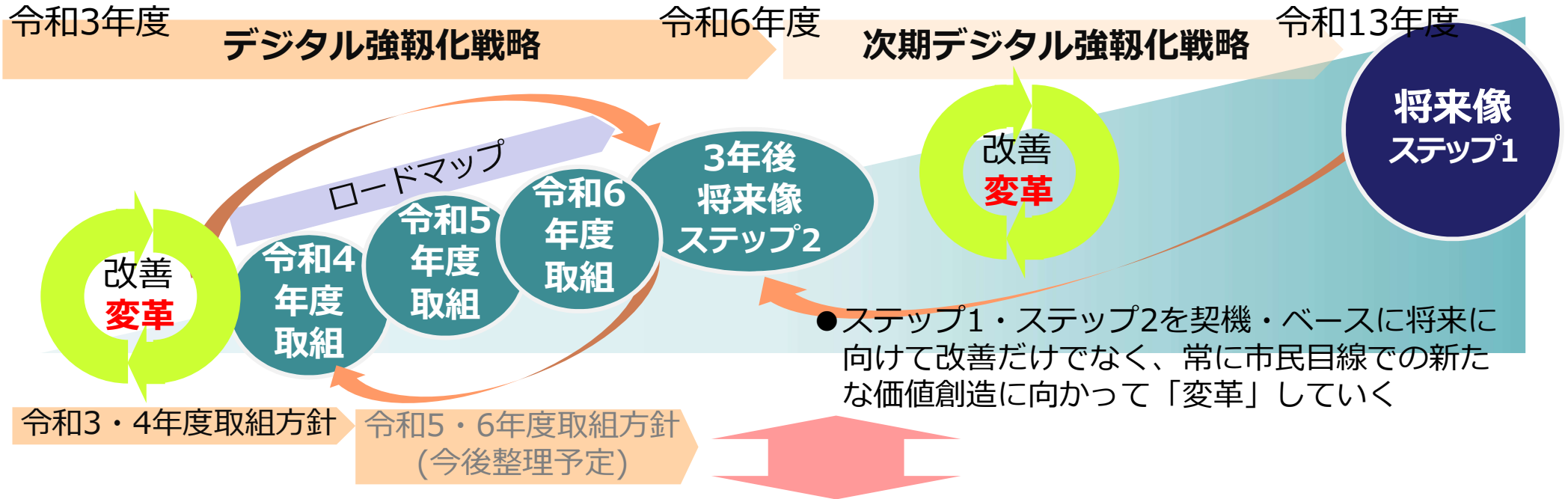
# 【資料1】 将来像・ロードマップ等を踏まえた 今後のプロジェクト(案)について

---

デジタル化推進本部事務局  
(総務部 情報戦略課)



○引き続き、デジタル強靱化戦略(改)に基づき、DX推進のための取組を間断なく実施していく。  
 ○具体的には、令和3・4年度取組方針と将来像の実現に向けて全庁一丸となって取り組んでいく。  
 ○また、デジタル化推進チームとして昨年度の振り返り(反省)を踏まえ、各部室局がDXを推進していくために必要な整理を進めていく。



**<デジタル強靱化戦略(改)>**  
 ○豊田市のDXの目的・戦略の役割  
 ○10年後に実現・実感したい変化(ゴールイメージ)  
 ⇒8総の将来都市像の実現  
 ○豊田市のDXの定義  
 ○職員のDX行動指針

◆全庁が共通認識・共有するゴール

国・技術動向を踏まえ  
 双方を常に見直し、最新の状態に

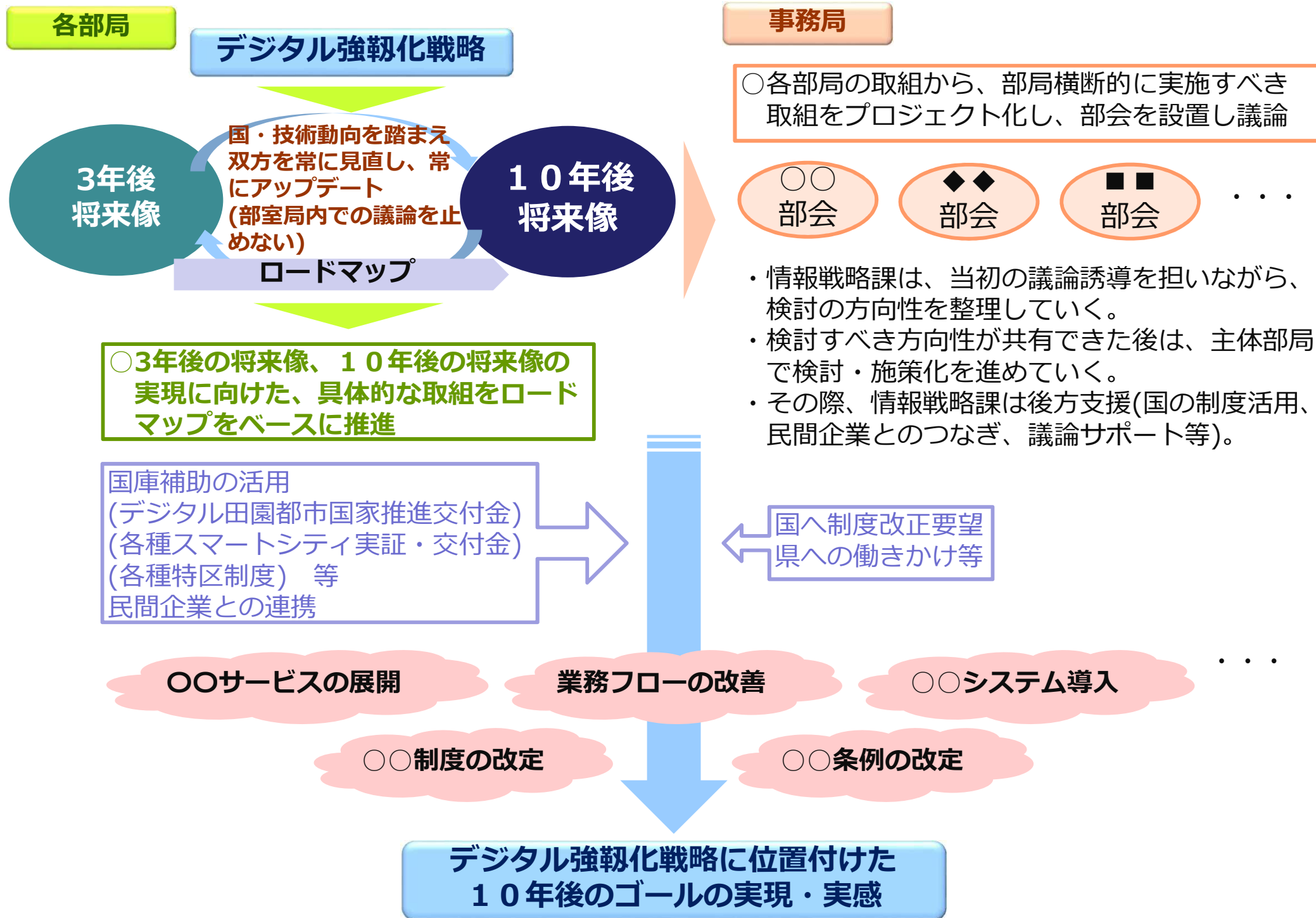
◎必要なエッセンスを  
 自部室局に反映

**各部室局が描く将来像**

- 10年後の将来像
- 3年後の将来像
- ロードマップ

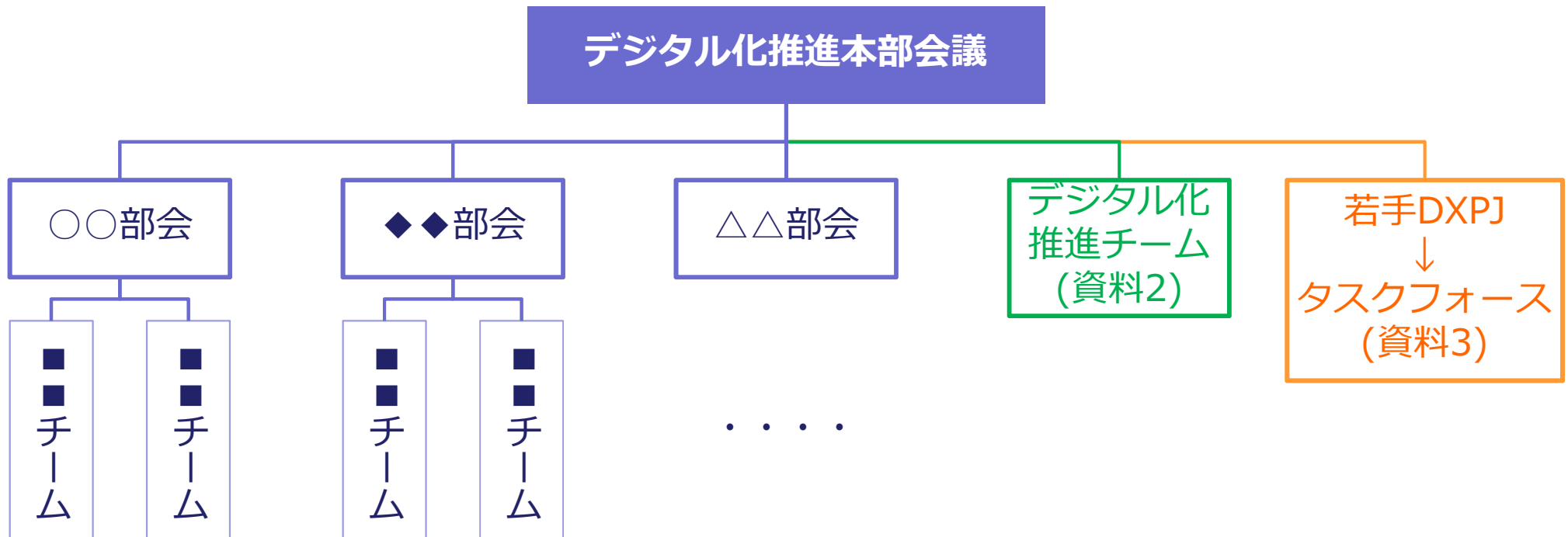
◆部局内で共通認識・共有するゴール

関係府省庁の方針  
 関係府省庁の予算



#### (1)部会の体制について

- 部会のテーマ・検討事項は、将来像・ロードマップ及び府省庁の動向との整合を図ったものとする。
- テーマ毎に設置する部会については、以下の体制を基本とする。
  - ・ 部会長 : 本部員(副部室局長) ⇒テーマに一番関連する本部員が担務
  - ・ 副部会長 : 本部員(副部室局長)※必要に応じて設置
  - ・ 構成員 : 関係所属長 ・ 事務局 : 本部員の部室局内の所属にて担当
  - ・ 事務局補佐 : 情報戦略課
- 本部会議での報告や説明については、部会長(本部員)から行うものとする。
- 部会内に施策等を検討する個別チームの設置などが必要な場合については、部会長と事務局での議論のうえ、部会長の判断で行うものとする。
- 個別チームを設置する場合、個別チームのトップは所属長とする。個別チーム内のメンバーは、部会長及び個別チームのトップ(所属長)と議論のうえ決定する。
- 別途、デジタル化推進チームとしては全庁に影響のあるテーマについて方針や取組等を並行して整理する。また、若手DXPJでも事業化に向けた検討を行う。(推進チーム : 資料2、若手DXPJ : 資料3を参照)



## (2) 将来像・ロードマップのヒアリングから得られた全庁で意識すべき視点

### ① 内部事務関係

- 現状、内部事務の中で各課共通的に人手を要している業務として、会計・契約をはじめとした処理。
- 財務オンライン・契約管理システム・一連の会計手続きなどにおいて、内容により手続きが複雑化しているとともに、紙・手打ち作業が基本となっている。それにより、マニュアルに従っているつもりでも事務ミスが発生しているなど、非常に多くの職員が苦しんでいる現状。
- 市民サービスの向上、新たなサービスの検討には職員のリソースを見出していく必要。10年後も同じ状態とは考えられず、現状を打破していく必要がある。
- よって、入札・契約・支払の一連の手続きにおいて、人手を介さず、デジタルにより一気通貫での対応を可能にするための抜本的改革が必要。
- 契約書に加え、見積、請求書などの電子化への対応も一体的に検討していくべきではないか。
- 各種書類等の押印廃止や、工事・委託等の書類のデジタル化が必須。
- デジタルにより現状の不便さを解消するとともに、各課最適にならない仕組み・制度を構築する必要。
- 全庁最適の仕組みで職員負担を軽減するべきではないか。 ○各所管施設や設備の有効活用

### ② スマート窓口関係

- 電子申請をもっと加速させるべきではないか。
- 単純なシステム導入だけでなく、市民目線での付帯事務に係る業務フローや役割分担の見直し・再構築、来庁者・職員の導線の最適化もセットで行うべきではないか。
- 全国で共通的に行われている事務の効率化などについては国への提言も見込む必要がある。
- 部局をまたいで取り扱う申請（例：地域からの工事申請）のデジタル化について、電子申請とともに事務負担軽減の観点からも内部事務の最適化も併せて検討すべきではないか。
- 各課最適にならない全庁最適の仕組み・制度を構築していく必要がある。
- 窓口相談のオンライン化も内容によっては十分に対応可能である。
- キャッシュレスも引き続き、推進していく必要がある。

### ③ マイナンバーカード関係

- マイナンバーカードについては、半数近くの市民が取得している状況であり、市民サービス提供の一つのデジタルツールとして使える可能性が高まってきている状況。
- 市民との間のやり取りで「紙」や「◆◆券」を使用しているケースにおいて、市民の利便性向上、職員の作業の効率化のため、マイナンバーカードの本市としての活用の方向性が必要なのではないか。
- タクシー券の補助など様々な場面でもっと活用していけるのではないか。

#### ④デジタルデバイス関係

- 高齢者のデジタルデバイスへのアプローチ・取組について市としての整理が必要ではないか。
- 障がい者や外国人・経済的困窮者への対応についても検討が必要。
- さらに、様々な状況下（災害時、放課後など）におけるWi-Fiなどの通信環境の整備も並行して検討が必要。

#### ⑤データ連携関係

- 土地・道路などに関する行政情報・地図データを効率的にオープン化することによる「行かない窓口」の構築が必要ではないか。
- データを活用した介護予防・見守りにより、より効果的・効率的な取組につなげていけないか。健診など医療・健康関連のデータも活用することにより、健康寿命を伸ばしていく取組が必要ではないか。
- オープンデータの更なる拡充・活用は積極的に進める必要がある。それを踏まえた事務の効率化。

#### ⑥働き方改革関係

- DXに合った庁舎のあり方、オフィス機能を実現し、働き方を革新していくことにより、職員の生産性の向上を目指す必要があるのではないか。
- ペーパーレスの推進、ネットワークの無線化、それに伴い必要となるストレージ容量の拡充など、環境の整備が必要ではないか。
- フリーアドレスなど新しい働き方へ対応することで、DX×かっこいい働き方を実現し、魅力的な職場を創り出し、職員が気持ちよく働ける環境を整えることで、生産性を高めていく必要がある。

#### ⑦LINE等の活用

- 市公式LINE等について、多機能かつ安価なデジタルツールが使える状況であり、もっと積極的かつ効率的に活用していくべきではないか。
- 公式LINEで実現可能なことが多くあるにもかかわらず、全庁で活用方法の検討がされていない。活用方法が増えないことも起因して、市民になかなか広まっていない。よって、市民と市のタッチポイント（ポータルサイト）として明確に打ち出しても良いのではないか。
- LINEの基本機能してプッシュ型通知が可能であり、効果的・効率的に情報を届けるための検討が必要。
- 市民からの情報提供ツールとしても活用が出来ることから、様々な使い方について検討する価値がある。

#### ⑧その他

- ドローン活用
- eスポーツ
- DXが進展した際の市民への恩恵の見せる化
- 避難所の運営管理DX
- 救急機材の在庫管理DX
- GPSなど生体データを活用した消防活動
- メタバース
- スマート農業

## (3) 政府・関係府省庁の方針より全庁で意識すべき視点

### ① 経済財政諮問会議：経済財政運営と改革の基本方針2022(仮称)「骨太の方針」より抜粋整理

#### ○ デジタルトランスフォーメーション(DX)への投資

- ・ デジタル時代に相応しい行政・規制・制度へ転換。そのためにデジタル改革・規制改革・行政改革を今後3年間を集中改革期間とし、「デジタル原則に照らした規制の一括見直しプラン」に基づき実行
- ・ 人流・物流DX・標準化、MaaS、センサー、ドローン、AI、ビッグデータの実装加速
- ・ デジタル3原則に基づき、行政DXの着実な推進を図るため、マイナンバーカードの普及強化を進める。
- ・ 「包括的データ戦略」に基づき、医療・介護、教育、インフラ、防災に係るデータ・プラットフォームの早期整備
- ・ 地方自治体におけるデジタル人材確保、AI・RPA等の活用促進。

### ② 全世代型社会保障構築会議 中間整理より抜粋整理

#### ○ 医療・介護・福祉サービス

- ・ データ活用の環境整備を進め、個人・患者の視点に立ったデータ管理の推進。
- ・ ICTの活用、費用の見える化、タスクシェア・タスクシフティングや経営の大規模化・協働化を推進。

### ③ 新しい資本主義実現会議のグランドデザイン及び実行計画(案)より抜粋整理

#### ○ DXへの投資

- ・ デジタルヘルス、マイナンバーカードの普及促進
- ・ 中小企業等のDX(IT導入、専門家による伴走支援)
- ・ 医療のDX(全国医療情報プラットフォームの創設、電カル情報標準化)、医療DX推進本部設置
- ・ 建築・都市のDX(3次元データ、プラトー、不動産IDの活用等)

#### ○ デジタル田園都市国家構想

- ・ 5G・ローカル5Gの推進
- ・ デジタル田園都市国家構想実現ファンドの創設(市町村と民間企業が連携して事業を行うための支援措置)
- ・ 規制・制度の一括改革・実証事業の実施  
(デジタル臨調による7項目のアナログ規制を集中的に改革。これを可能にするための実証事業を実施)
- ・ スマート農林水産業
- ・ メタバースなどのコンテンツ利用の拡大



## (3) 政府・関係府省庁の方針より全庁で意識すべき視点

### ④ デジタル田園都市国家構想実現基本方針より抜粋整理

- デジタルは地方の課題解決の鍵。官民双方でDXを積極的に推進。
- 地方に仕事をつくる、人の流れをつくる、結婚・出産・子育ての希望をかなえる、魅力的な地域をつくるなどの視点でデジタルの力を活用
- マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大
- 国・地方間、地方・準公共・企業間などのサービス利活用促進のための、データ連携基盤構築
- ICT及び官民共創による持続可能性と利便性の高い地域公共交通ネットワークの再構築
- デジタル人材育成プラットフォームの構築(地方におけるDX促進活動支援等)
- デジタル人材地域還流戦略パッケージによる地域への人材還流
- デジタル共生社会の実現、経済的事情等に基づくデジタルデバイドの是正
- 構想実現にむけて地方がイメージしやすいビジョン類型を提示  
ex: スマートシティ・スーパーシティ、「デジ活」中山間地域、産学官協創都市、SDGs 未来都市  
脱炭素先行地域、MaaS実装地域 等
- デジタル田園都市国家構想総合戦略の策定  
・ 地方は「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定に努め、具体的な地方活性化の取組を推進」

### ⑤ デジタル庁 重点計画改定版

- デジタルファースト原則に基づいて、法令を見直し、プロセスや体制のあり方を再構築
- マイナンバー等の利用拡大、オープンデータ活用の徹底、プラットフォームの連携・拡大
- 医療などの準公共分野をはじめとする全産業のデジタル化
- 官民でのデータ連携・提供・共有など、分野横断的なデータ利活用の推進
- 地域のデジタル実装の推進、地域人材と地域課題のネットワーク化
- 利用者視点を第一にしたサービスデザイン体制の確立
- 地域におけるデジタル人材の育成、官民学で人材が行き来することによるデジタル人材の育成
- デジタル田園都市国家構想の推進
- デジタル臨時行政調査会での検討事項の推進

#### (4)プロジェクト(案)について

- 将来像・ロードマップ・政府動向を踏まえ、本市のDXを以下の論点・テーマを全庁で議論を加速させていく必要がある。以下の論点については、「部会」・「推進チーム」・「若手DXPJ」で具体化していく。

##### ①内部事務など業務改革によるDX促進

- ・将来像・ロードマップの実現における課題を俯瞰すると、DXを進める上で、内部事務のやり方・用いるシステムがボトルネックとなっている。政府方針等においてもデジタル時代に相応しい行政への転換やBPRの推進が強く謳われており、スピード感をもって進めていく必要がある。

##### ②スマート窓口化 (P)

- i)市民課のスマート窓口化を契機に、スマート窓口を福祉部や子ども部などに拡充していくことが必要。
- ii)ほとんどの市民が利用している「LINE」。これを有効活用することで、市民サービスの向上・事務の効率化につながる可能性が多分に考えられる。市として公式「LINE」の積極的・戦略的活用していくこととし、公式LINEの具体的な活用方法について検討することが必要。

##### ③マイナンバーカードの活用

- ・マイナンバーカードの普及促進・利活用については、将来像・ロードマップ及び政府方針でも共通している視点。今後の流れに合わせて方針や取組を検討していくことが必要。

##### ④デジタルデバインド

- ・将来像・ロードマップにおいてもデジタルデバインド対策が重要視されているとおもに、政府方針でも高齢者をはじめ経済的困窮者など幅広い視点でのデジタルデバインド対策が位置付けられていることを踏まえ、本市としての方針を検討していくことが必要。

##### ⑤データ活用

- i)医療・介護・健康などの分野においてデータ活用という視点が将来像・ロードマップ・政府方針でも共通している。これらについては現状を整理するとともに、今後の方針等を検討していくことが必要。
- ii)また、都市・建築などのオープンデータの活用については関係部署の将来像・ロードマップで共通した取組事項として整理されていることから連携して議論していくことが必要。

#### (4)プロジェクト(案)について

##### ⑥小中学校に設置されているWiFiの賢い活用

- ・ GIGAスクール構想の推進に伴い、小中学校にはWiFiが整備されている状況。これらを有効活用することで、防災・子どもへの対応が効率化することが想定されるため今後の取扱や対応について検討していくことは市としても大きなメリットとなる。

##### ⑦働き方改革

- ・ 将来像・ロードマップの実現、政府方針等によりDXが加速する中で、「働き方」も大きく変化していく。例えば、ペーパーレスなどはDXを加速させる鍵にもなる。付随して、フリーアドレスやオンライン会議なども活用していくことで、DX時代にあった働き方をしていくことは市役所のポテンシャルを高めることにもなることから、検討していくことが必要。

##### ⑧DX人材

- ・ DXは誰かが進めてくれるものでもなければ、自然に進んでいくものでもない。やはり職員一人ひとりの積み重ねが一番の近道である。そのためには、庁内の人材育成の体系化、外部人材等の効果的活用を目的・方向性をもって進めていくことが必要。

##### ⑨将来への投資

- i) オープンデータガイドラインの改定、デジタル田園都市国家構想におけるデータ連携など、データ活用が今後のDXの鍵になることは間違いない状況。本市としても官民連携を視野に入れたデータ活用について方向性を定めていくことが必要
- ii) 医療・介護・健康などの分野においてデータ活用という視点が将来像・ロードマップ・政府方針でも共通している。これらについては現状を整理するとともに、今後の方針等を検討していくことが必要。(再掲)

#### (4)プロジェクト(案)について

○全庁で議論していくテーマについては、以下の体制で検討する。

検討テーマ	検討組織		
	部会	デジタル化推進 チーム(資料2)	若手DXPJ (資料3)
①内部事務・業務改革	○		※部会に合流
②スマート窓口 i)市民課からの展開	○		
②スマート窓口 ii)LINE活用			○
③マイナンバーカードの活用	○		
④デジタルデバインド	○		
⑤データ活用 i)庁内データ連携 ⑨将来への投資 i)データ活用 ii)医療・介護・健康等	△	← ○	
	※チームでの議論を踏まえて部会に移行することを想定		
⑤データ活用 ii)都市・建築分野での活用	○		
⑥WiFi活用	○		
⑦働き方改革		○	
⑧DX人材		○	

#### (4)部会にて議論を進めるプロジェクト(案)について

○部会として検討する事項の主な論点・体制(案)は以下のとおり

##### 業務改革部会

###### 【検討事項】

○全庁のDXを加速させる際に、ポイントとなる内部事務の効率化。特に会計事務・契約事務などをDXに合ったフロー・仕組みに変革していく必要がある。また、これらの手続きにおいて、印鑑の押印を庁内外に求めている。これについてもDXに合った仕組みへ変革していく必要がある。当部会ではこれらの抜本的な見直しを検討し、具体的な方策を構築する。

###### 【構成メンバー】

◆部会長：総務部 副部長 ◇副部会長：上下水道局 副局長

○事務局：情報戦略課・行政改革推進課

○構成員：情報システム課・法務課・財政課・会計課・契約課

経営管理課・(上下水)総務課 監査委員事務局・若手DXPJ(内部事務チーム)

##### スマート窓口部会

###### 【検討事項】

○現在、市民課において「書かない・待たない窓口」の実装化を進めている。この取組を契機に、市民からの申請等を受け付ける窓口を中心として「行かない・書かない・待たない窓口」＝スマート窓口の実現に向けて更なる拡充を進め、市民サービスの向上を図る必要がある。当部会では、市民課以外の窓口も含めたスマート窓口化具体的な方策を構築する。

###### 【構成メンバー】

◆部会長：市民部 副部長 ◇副部会長：福祉部 副部長 ○事務局：市民部内

○構成員：市民部・福祉部・子ども部・地域振興部内の関係課

※オブザーバー：情報システム課・情報戦略課

#### マイナンバー部会

##### 【検討事項】

- マイナンバーカードが普及していく状況も踏まえ、本市としてどのようにマイナンバーカードを活用していくかの方向性を当部会では整理する。

##### 【構成メンバー】

- ◆部会長：総務部 副部長 ◇副部会長：市民部 副部長 ○事務局：総務部内
- 構成員：情報戦略課・情報システム課・市民課・福祉部関係課・子ども部関係課 等

#### デジタルデバイド 検討部会

##### 【検討事項】

- DXの進展に伴い課題となるのは、デジタルデバイド。この課題に対して本市としてどのような方向性で施策等を検討してくか、その方向性に基づいた際の具体的な取組等を当部会では検討・整理する。

##### 【構成メンバー】

- ◆部会長：福祉部 副部長 ◇副部会長：生涯活躍部 副部長 ○事務局：福祉部内
- 構成員：福祉部・生涯活躍部関係課・情報戦略課

#### 持ち回り確認 効率化部会

##### 【検討事項】

- 企画政策部の将来像に位置付けられている土地等の情報確認の効率化(行かない窓口)を、関係部署との連携で進めていく。当部会ではその手法を整理する。

##### 【構成メンバー】

- ◆部会長：企画政策部 副部長 ◇副部会長 都市整備部 副部長 ○事務局：都市計画課
- 構成員：都市整備部・建設部・上下水道局関係課、オブザーバー：情シス課・情戦課

#### 通信環境 効率化部会

##### 【検討事項】

- 小中学校のGIGAスクール構想の実施等に伴い、学校施設へのWiFi設置がされている。このWiFi機能を有効活用することで、避難所設置・運営や放課後児童クラブの運営等に効果をもたらすものと考えられるため、当部会においては学校施設のWiFi活用について方針を整理する。

##### 【構成メンバー】

- ◆部会長：教育部 副部長 ◇副部会長 市民安全室長 ○事務局：教育センター
- 構成員：防災対策課・次世代育成課 オブザーバー：情報システム課・情報戦略課

# 4 今後のスケジュールイメージ

